BUNGOONO GEOSITEFILE
豊後大野ジオサイトファイル

原尻の滝

HARAJIRI FALLS / OGATA

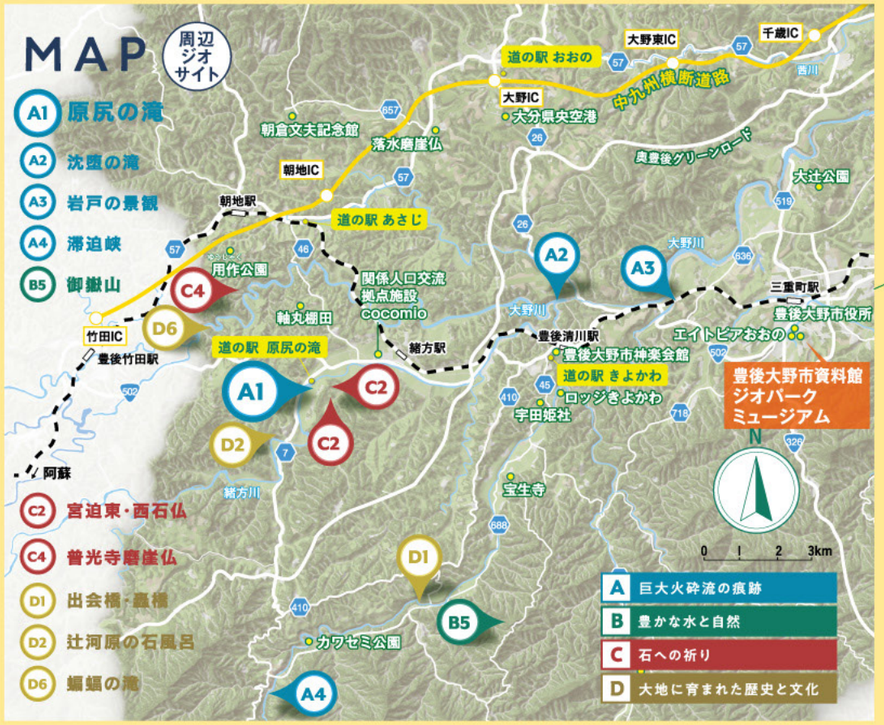
おおいた豊後大野ジオパーク
Oita Bungoono Geopark



持って、歩いて、ひもとこう。

MAP 周辺ジオサイト

- A1 原尻の滝
- A2 沈堕の滝
- A3 岩戸の景観
- A4 滝迫峡
- B5 御嶽山
- C2 宮迫東・西石仏
- C4 普光寺磨崖仏
- D1 出会橋・轟橋
- D2 辻河原の石風呂
- D6 蝙蝠の滝





周辺情報



道の駅 原尻の滝

大分県豊後大野市緒方町原尻 936-1
✆0974-42-4140 P190台
営9:00～17:30（季節時間有）
とれたての農産物や加工品などの特産品が並ぶ。ふるさとメニューが揃うレストランはスペースも広く、ゆっくりくつろげる。

おおいた豊後大野ジオパーク推進協議会 https://bungo-ohno.com
〒879-7198 大分県豊後大野市三重町市場 1200 番地 豊後大野市商工観光課内
TEL 0974-22-4089 FAX 0974-22-3361

おおいた豊後大野ジオパークガイド
TEL.080-2708-7809



豊後大野ジオサイトファイル

原尻の滝

ここ緒方盆地の真ん中に突如現れる幅120m、高さ20mの「原尻の滝」。
この滝は、大野川の支流「緒方川」にかかる滝で、上空から見ると美しい弧を描いています。平地にあるため気軽に立ち寄ることができ、間近で滝を見ることができます。さらに、古来より人々の生活と深い関係があり、私たちの歴史や文化、産業に大きな影響をあたえてきました。その基礎を成すものは、滝の姿や川の様子で知ることができます。神社や水路、石橋などはその上に成り立っています。

約９万年前のできごと

原尻の滝を形づくっている岩は、おおいた豊後大野ジオパークにもっともなじみの深い石、「溶結凝灰岩」と呼ばれる岩石でできています。この「溶結凝灰岩」は、今から約９万年前、熊本県阿蘇地方にあった阿蘇火山の巨大噴火によって流れてきた火砕流からうまれました。

この滝は観光名所であるだけではなく、古くから灌漑に利用されてきました。巨大な滝と水路と水田が織りなす眺めは、「緒方川と緒方盆地の農村景観」として国の重要文化的景観に選ばれています。

③ 柱状節理とポットホール

火砕流は冷えて固まる際、収縮し多くのヒビが生じました。このヒビ割れは、タテ方向にのび、まるで柱を並べているように見えることから「柱状節理」とよばれています。滝がまっすぐに切り立つ理由はこの柱のような岩が崩れるからです。

また、滝の上では、無数のポットホール（おう穴）が見られます。水の流れと岩盤の上を転がる石が、長い年月をかけて穴や溝をつくり、広げていったものがポットホールです。原尻の滝でよく見られる溶結凝灰岩は、崩れやすく削られやすいのが特徴です。



原尻橋

大正12年（1923）に建設された5連のアーチ式石橋です。

大正時代になって豊肥線に緒方駅ができると、「これまでの木橋では、文物の交流においていかれる」と地元の人々が奮起しこの石橋を建設しました。

この石橋の素材は、この地でたくさんとれる溶結凝灰岩です。加工しやすい岩石であることから、原尻橋の他にも数多くの石橋が豊後大野に架けられました。



三区（野仲）井路



滝上のポットホール

（徒歩約5分）→原尻橋

川の中の鳥居

三宮社神輿の御幸道

二宮八幡社

原尻古井路

原尻の滝より上流の両側には水路（井路）の取水口が多くあります。緒方下井路、原尻古井路、三区（野仲）井路、緒方上井路のほか、上流にもあります。このように滝をきっかけとして、より上流から水を取ることで多くの土地に水が行き渡ることとなりました。

滝見橋

カメラポイント
表紙の写真は、このポイントから撮影したものです。

道の駅 原尻の滝

増水時は通行止めになります。

② 水路に託された人々の生活

この滝の上流から取水する水路は「緒方下井路」と呼ばれ、一説には平安時代末期の有力豪族緒方三郎惟栄によって作られたものと言われています。

「滝に水が落ちる前に水路を作る」この昔の人の知恵は、今でも約7㎞先まで水を運ぶ現役の水路として活き、緒方五千石と呼ばれた実り豊かな土地を潤しています。



阿蘇火山の巨大噴火がつくった岩

緒方下井路

① 阿蘇火山の巨大噴火が作った岩

ここに置かれている岩は、溶結凝灰岩です。滝の岩と同じ約9万年前にもたらされた火砕流が冷えて固まったものですが、よく見ると、黒いシマ模様があるのに気が付きます。これは、火砕流に含まれていた軽石が熱で溶け、火砕流の重みでつぶされたものです。滝の上の岩にも同じような模様がたくさんあり、上から見ると円形に、横からみるとレンズや筋のようになっています。このことから、原尻の滝は火砕流が強く固まった部分であることがわかります。

巨大噴火のつめあと

約9万年前の阿蘇火山の巨大噴火では、上空に1万メートル以上の噴煙（火山ガスや溶岩や岩、火山灰など）があがったと言われています。その噴煙が崩れおちたものが火砕流になりました。その量があまりに膨大であったため、もともと低地であった大野川流域は、すべてこれに埋め尽くされました。阿蘇火山の火砕流は自らの熱で溶けたあと、ゆっくり冷えて固まりました。こうしてできた岩石を「溶結凝灰岩」と呼びます。





緒方三社配置図

「川越し」は約１時間かけ行われ、三宮と二宮の氏子が力を合わせます。

緒方三社川越しまつり

寒さが厳しくなる頃、この滝の上をお神輿が渡る、緒方三社川越しまつりが行われます。この祭りは旧暦10月14日、15日に近い土日に行われる、一宮、二宮、三宮八幡社の連合祭です。

左岸にある三宮の神輿は滝の上の川を渡り右岸の二宮社まで向かいます。そして、この川越しの際に、緒方下井路の取水口に必ず神輿を入れ練り歩きます。これには、水を滞りなく運んでくれる水路に対する感謝と繁栄への祈りが込められており、滝の上だからこそ成立した水路と、それを見守る一宮、二宮、三宮、そしてその三社を集わせて祝う人々の祈りが見て取れます。三社が揃った翌日には、直会の宴が催され、滝の上に緒方三社神楽の奏楽と人々の歓声が響きます。

